

## 学部・講義：幼児や保育者の姿、保育の現場を思い描きながら 自らの考えを深める

幼児教育・青井倫子

### 1. 授業の概要

本科目は幼年教育の専修科目（2回生対象必修）であると同時に、幼稚園教諭免許状の教職に関する選択科目（一種：必修、二種：選択必修）、保育士コースの必修科目である。

授業の内容は、(1)幼児教育の方法及び領域のとらえ方、(2)領域「人間関係」導入の背景と意義、(3)幼児をとりまく人間関係の特質と機能、(4)幼児の仲間意識発達のすじ道、(5)人とかかわる力を育む保育のあり方である。

### 2. 受講学生 18名

2回生：11名（教育学1名、幼年教育5名、  
数学教育1名、特別支援4名）

3回生：5名（教育心理1名、特別支援4名）

4回生：1名（保健体育1名）

科目等履修生：1名

### 3. 授業の工夫

(1) 全体の4割が幼年教育専修や保育士コースに所属している学生であったが、未だ保育現場の観察や実習の経験は浅い。また、幼年教育専修・保育士コース以外の学生たちの多くが、幼児教育の基礎知識や、幼児とかかわった経験、幼稚園を見学した経験などがほとんどない者であった。そのような学生であっても、具体的な幼児の姿や保育場面をイメージしながら授業を理解できるような配慮を常に心がけた（ビデオ視聴、幼稚園教諭と園児のやりとりを青井の演技力の範囲内で再現、青井が地域貢献や研究上記録した事例をプリントで配付、等）。

(2) ノートテイクに労を費やさず、授業内容を理解することに集中できるよう、授業は記入式のプリントに従ってすすめた。

(3) 学生が自らの意見や考えを持ち、それと

照らし合わせながら理解を深めていけるよう（一方的な伝達にならないよう）、発問-応答のやりとりを心がけた。

(4) 青井が幼児を演じ、学生に幼稚園教諭（保育士）として応対させ、それに対してコメントや解説を与える方法も多く取り入れた。

### 4. 授業評価の方法

14回目の授業終了時にアンケート（5段階評定と自由記述）を配付し、持ち帰って記入してもらった。回収は最終授業日に行った。

学年・専修は記入してもらい、氏名の記入については個々の学生の自由意思に任せた。

### 5. 授業評価の結果

5：たいへんそう思う（非常によい）

4：ややそう思う（よい）

3：どちらともいえない（ふつう）

2：あまりそう思わない（あまりよくない）

1：まったくそう思わない（よくない）

#### (1) [学生の自己評価]

出席状況 4.3

受講前に問題意識があったか 3.6

意欲的に取り組んだか 4.4

#### (2) [授業に対する評価]

テーマ・目的は明確だったか 4.7

話し方は明確・聞き取りやすかったか 4.9

重要なことを強調したか 4.9

プリントに沿った授業は理解を助けたか 4.9

ビデオ視聴は授業の理解を助けたか 5.0

授業への熱意・工夫が感じられたか 4.9

内容・レベルは適切だったか 4.5

考えが培われたり得るものがあったか 4.7

学問をする雰囲気は保たれていたか 4.8

教職に就くうえで有益だったか 4.9

(3) [自由記述]

【良かった点、印象に残った点】

- ・おっしゃることに一貫性があり、根底にある大切なことを学ぶことができる。その大切なことは、保育だけでなく教育全体にも通じることがたくさんあり勉強になった。
- ・園生活のありふれた出来事には、一つ一つ意味があることがわかり、保育者の大変さとともにやりがいや面白さをとても感じた。
- ・実践的で、現場での対応を考える内容で勉強になった。
- ・現場に出た時にそういうことがあるんだということが実感できる授業だった。
- ・とても分かりやすい言葉で丁寧に教えてくださった。
- ・たくさんの事例があることで、理論と結びつけて理解しやすかった。
- ・専門用語はやはり難しいので、その時その時に例を挙げてもらえるのは本当に助かった。
- ・1つの説明について複数の事例を交えながら噛み砕いて説明して下さったり、いろいろな言い方で説明して下さったりしたのでわかりやすかった。
- ・重要な点を何度も繰り返し話されていた。
- ・先生が実際に見た場面をもとに話されることが多く、細部やその前後、園の雰囲気なども合わせて知り、考えることができた。
- ・事例がたくさんあったので、実際にあったケースを考えて適切な保育のあり方を知ったり考えたりすることができた。
- ・ビデオやたくさんの事例、授業中に先生が話される例があることで、その場で具体的な理解をすることができてよかった。
- ・字を見て学ぶだけではなく、事例やビデオ等を見ることで、具体的な状況がわかり理解が深まった。
- ・先生が実際に保育所や幼稚園で見聞きしたことについてのお話がたくさんあり、わかりやすかった。
- ・いざこざや葛藤に関する事例をたくさん提供して下さったり、ビデオも使っていざこざや葛藤の意義を学べたことがよかった。
- ・一つ一つの内容に対して、丁寧にさまざまな視点から教えてくださり、とてもイメージしやすく記憶にも残りやすかった。
- ・資料を配付して、その中の事例一つ一つについて考えたことがよかった。
- ・整理されており、図になっていたり、ポイ

- ントを端的に書くようになっていたりして、見やすく、分かりやすく、思い出しやすい。
- ・学生が発言したり、先生と私たちとのやりとりがあり、投げかけられることで自然と一人一人が自らよく考えることができる。
- ・先生との距離が近くてよかった。
- ・先生になるのは大変だけど、やっぱりなりたい！と改めて思える授業だった。
- ・今回学んだことを忘れないように、子どもと適切にかかわれる保育者を目指したい。
- ・この授業を受けて、将来、障害のある乳幼児の教育に関わりたくて決心することができた。そのため、保育士試験を受験することにしたので、また相談にのってください。
- ・自分の専攻とは違う授業であったが、興味をもって聞くことができた。
- ・今期の授業で一番楽しかった。毎週の授業が楽しみだった。
- ・心に残る授業だった。
- ・“心理的安定感”のところ、「先生になった時、何年たっても、毎年4月になったら思い出してほしい」という言葉が印象に残った。
- ・子どもは保育者の鏡。子どもを見て自分を振り返ることの大切さ。スキルも必要だが、自分自身をどう育てていくかという人としてのあり方を考えさせられた。

【改善すべき点】

- ・ビデオで聞き取りにくいものがあつたので、字幕があると内容を把握しやすい。
- ・資料に通し番号があると整理しやすい。

6. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

県・市・町の保育に関する巡回相談員であるため多くの幼稚園や保育所の保育について指導助言を行うとともに、実践的な研究を行っている。保育現場で得た事例や知見を授業で紹介したり、検討材料としたりなどすることで、実際の・実践的で、またわかりやすい授業づくりに努めている。

学生たちにとっては、授業内容の理解促進につながるるとともに、近い将来保育者になる者として、実際の事例は、自分ごととして考えながら学ぶことにつながっている。とりわけ、幼年教育専修や保育士コース以外の受講生の多くは開講当初の問題意識がそれほど高くないものの、授業終了時における授業評価の高さは、こうした取り組みによるものと思われる。

<アンケートの自由記述（下線部）を参照。>